

KSK**川崎市障害者社会参加
推進センター通信**

編集人 川崎市障害者社会参加推進センター
所長 中込 義昌
編集責任者 広報・啓発委員会
委員長 澤藤 充教
〒210-0834 川崎市大島 1-8-6
川崎市南部身体障害者福祉会館内
電話 044-246-6941
FAX 044-246-6943
Email zksk@nifty.com
http://kawashinkyo.org

全国盲女性研修大会東京大会を終えて

(秋篠宮妃殿下御臨席)

9月7日より9日までの3日間にわたり、社会福祉法人日本盲人会連合、同女性協議会加盟団体による全国盲女性研修大会東京大会が行われました。各地域から代表者が集まり、それぞれ課題を出し合って、その解決方法などを討議する場です。

各地域で、毎年持ち回りで行われていますが、とくに今年は、第60回を迎え、記念大会と銘打ち、東京都盲人福祉協会、同女性部が当番都市となって行われました。会場は、メルパルク TOKYO、東京プリンスホテルで、1,000人を超える参加者がありました。

とくに60回という大きな節目の年でもあり、秋篠宮妃殿下紀子さまにお越しいただき、私たち障害者に対する関心の深さを感じ取れる、きめ細やかなお言葉をいただくことができました。

3日間の内容ですが、第1日は、全体の運営にかかわる方針、打ち合わせなど、第2日には、北海道から沖縄まで58団体(政令指定都市を含む)の各女性部正副部長による代表者会議があり、そこでは、およそ100名が出席し、各ブロックが提出した議題を討議しました。

主なものは、

- ① 視覚障害者が入院したとき、ホームヘルパーやガイドヘルパーを利用できるようにすること
- ② テレビ放送において、緊急時のスーパーの音声化とニュースなど外国語の文字化部分を音声化すること
- ③ 同行援護事業および事業所の地域格差をなくし、視覚障害者が利用しやすい制度にすること
- ④ JR の特急料金に障害者割引を入れること
- ⑤ 障害者用交通系 IC カードを作成すること
- ⑥ 食品の賞味期限、消費期限を含む食品情報が、視覚障害者にわかるよう、システムづくりを推進すること
- ⑦ 視覚障害者が使いやすい家電製品を開発すること

などの要望が討議されましたが、いずれも生活者としての視覚障害者が常日頃不便に感じていて、行政や交通機関、メーカーなどに改善を求めたい事柄ばかりでした。午後から行われた研修会では、前半、スポーツジャーナリストの増田明美氏を講師に、「『自分』という人生の長距離ランナー」と題して、笑いを交えての独特の語り口で、挫折あり、勝利ありの、繰り返しのなかでの「自分らしさ」の獲得などが話され、あっという間の 90 分でした。

研修会後半では、レポート発表、意見交換会が行われました。今年のテーマは、「バリアフリー商品とわたし～使ってよかったと思うもの、あったらいいと思うもの～」です。各ブロックから 9 名の代表者が、日常生活のなかでの体験を語っていました。音声対応や点字表記されているものなどを生活の中でどのように活用しているか熱弁を振るわれていました。

なかでは、だれもが「便利」と言われているものとして、シャンプーとリンスのボトルに



さわって確認できる表示があげられました。

また、アルコール飲料の缶に点字でお酒と表記されていることによって、子育て中の主婦が子どもさんへの誤飲を避けることができるので、たいへん役立つとの発表がありました。なかでも、「女性だからこそその絶賛品」として、音声化されている「音声式体重計」。これは、私自身おおいに共感したところです。

また、中途失明者の発言で、点字を簡単に読み取ることができる「センサー付きの指サック」など、点字取得が困難な方の発言もありました。私のように常用的に点字を読み書きしている者にとって、中途失明者のご苦勞を垣間見ることができました。

多くの方が述べていたことですが、「バリアフリー商品」とあらためて表示していないものにも、工夫次第では日常生活に利用できるものがあります。たとえば、電話機の「5」のボタンに小さな点があること、最近増えた家電製品でおしゃべり○○○など。視覚障害者だけではなく、子どもさんや、これからますます増える高齢者にも役立つ商品を見つけるのも楽しいことと思います。

演壇に立つ発表者と、助言者として参加された共用品推進機構専務理事 ほしかわ やすゆき 星川 安之氏と東京都消費者啓発員 すずき のぶこ 鈴木 伸子氏、そして、会場との意見交換が活発に行われました。

喧噪と忙しさの 3 日間を終えて、社会に訴えること、地域に働きかけること、そして、自分でも努力することがたいせつなことを再発見した大会でした。

NPO 法人 川崎市視覚障害者福祉協会

女性部部长 おおすき すみこ 大瀧 純子

平成 27 年に向けた川崎市長への要望活動 NPO 法人 あやめ会

本年も川崎市長への要望活動を行いました。各単会等からの要望等を基本に、以下のような要望事項を取りまとめ、市議会各会派への説明を経て、8 月 20 日に要望書を市当局へ提出しました。各会派との懇談会、市当局への説明に際し、多くの会員の出席の下、精神障がい者を抱える家族の切実な思いを訴えて参りました。

これにより当事者とその家族を取り巻く厳しい現状と、改善に向けた諸課題につき、行政及び議会の関係者に充分、理解して頂けたと思っております。

昨年 10 月から念願の重度障害者医療費助成の適用が、また一昨年にはバスの無料化が実現すると共に、あやめ会への委託事業も継続される等がありました。

この様に我々の要望が徐々に実現していますが、今なお障害者間の格差は大きく、重度障害者医療費助成の適用範囲の拡充等、種々の課題が存在しております。今年は諸々の状況を勘案し、以下の要望（要約して記します）を行いました。

主要な要望事項

1. 在宅の当事者を対象にした訪問支援や家族への総合支援等の訪問型福祉サービス充実
2. 退院後の地域移行支援のための相談支援、生活のフォローアップ等の体制の拡充
とくに「桜の風」等の宿泊型自立訓練施設等の拡充、退院後の必要なサービスの給付
3. 地域移行支援の受け皿となるグループホーム・作業所等の増設の促進・同施設の各種助成措置の継続

その他の要望事項

1. 重度障害者医療費助成に入院費の適用、更に手帳 2 級への精神科通院費の無料化
2. 各区保健福祉センターへの、精神関係のベテラン職員の配置等の拡充強化

3. 包括型地域支援体制（ACT）の立上げ、在宅の当事者への訪問医療及びその家族を対象とする生活の総合支援
4. 入院医療援護金の増額
5. 各種手続きに必要な“診断書料”の無料化あるいは助成措置
6. 障害年金の申請要件の緩和、特別障害給付金範囲の拡大
7. 精神科医療の適切な措置
 - ・救急医療体制の拡充、その情報の提供
 - ・精神障がい者が身体疾患との合併症を起した場合の緊急時医療体制の確保
 - ・精神科医療受診者への血液検査、心電図等の定期健診の義務化の検討
 - ・震災等被災時に備えての一定量の抗精神病薬の備蓄
8. 当事者や家族が安心してショートステイや医療面のサポートが受けられる施設の設置や体制の整備
9. JR 及び私鉄、有料道路の割引の適用（特に JR 南武線）
10. 当事者の就業機会の拡大（例えば、市の施設での直接雇用、チャレンジ雇用等）
11. 相談員の法制化
12. 精神障がい者に対する差別・偏見をなくするための教育、民間への啓蒙
13. 家族会活動の定例会場の確保への協力
14. あやめ会への地域精神保健福祉促進事業の委託の継続

以上です。これらは各単会からの要望の全容です。いずれも今後も粘り強く働きかけて行く所存です。皆様のご支援とご協力をお願いする次第です。



NPO 法人 あやめ会
(川崎市精神保健福祉家族会連合会)
副理事長 しみず 清 信

(公財)川身協 構成団体紹介 特定非営利活動法人川崎地域腎臓病連絡協議会

日頃から私達【特定非営利活動法人 川崎地域腎臓病連絡協議会 (略称：NPO 法人 川腎協)】の活動にご理解を賜り厚く御礼を申し上げます。NPO 法人 川腎協は川崎市在住の透析患者、及び川崎市内の透析施設で透析を受けている患者、そして私達の会の主旨に賛同して下さる約 500 名で組織している団体であります。

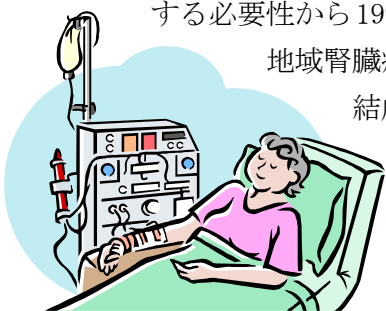
今から 45 年以前の腎臓病患者は、現在とは比較にならない程厳しい環境に置かれていました。透析機器の性能が低く、受け入れ可能な施設の数も大幅に少なく、その上高額な自己負担が必要でした。

「金の切れ目が命の切れ目」と言われた中、その悲惨な状況を打開するため患者同士が結集した結果が 1971 年 6 月に全国組織として全腎協【現在の一般社団法人 全国腎臓病協議会】が結成され、1976 年 9 月に神奈川県腎臓病患者連絡協議会【現在の NPO 法人神奈川県腎友会】が設立しました。

先人の正に命を賭けた活動と、その後の医療の進歩と福祉助成制度の拡充で、私達透析患者は治療を続けながら社会生活を営むことが出来ております。

設立当時、川崎市には全国組織に繋がった透析患者会はなく、国・県に要望して行くためには全国組織に繋がった透析患者会を設立

する必要から 1994 年 4 月に川崎地域腎臓病連絡協議会を結成し、1999 年 12 月に「特定非営利活動法人 (NPO 法人)」の認証を受け、川崎市当局を初めとし、地域社会や関係各位の皆様方の温かいご指導とご支援のもと障害者仲間の生き甲斐を求めて活動しております。



会員の殆んどが、1 日 4~5 時間、週 3 回の透析療法を受けることにより、生命を維持しております。

私達はこのような透析治療を受けながらも、福祉制度や透析医療の進歩、充実等により、一般社会への復帰を果たすことが出来るようになりました。本当に有り難く心より感謝しております。

反面、長期透析による様々な合併症の増加や透析導入年齢の高齢化に加え、近年、特に合併症を併発しがちな糖尿病腎症透析患者の増加等々により、日常生活や通院に介護を必要とする透析患者が増え、通院に関わる問題が切実になっております。

これらの現実を踏まえて私達透析患者の願いとして、従来同様のご理解を賜り、宜しくご配慮賜りますようお願い申し上げます。



(総会会長挨拶)

主な活動内容

1. 透析患者・家族の方を対象とした医療講演会等を開催し、透析に対する正しい知識と理解を深めています。
2. 患者の意欲として社会復帰、就労問題の促進を図っています。
3. 医療機関等と話し合い、透析患者の医療と生活を守るため QOL (生活の質) の向上に努力しています。



(総会参加者)

4. 毎年、次年度福祉予算等に関わる要望を川崎市長に提出、健康福祉局と内容について話し合いを行い、各会派市議会議員団とも要望について懇談しております。また、市議会へも陳情を提出しています。
5. 川崎市、川崎市医師会主催の【慢性腎臓病（CKD）】への予防対策の一環として医療講演会・料理講習会の開催等に協力し、少しでも透析で苦しむ人を無くし、高額な医療費削減にも繋げるため、川崎市内医療機関と連携して市内広域に啓発活動を展開しています。
6. 会員への情報提供として、NPO 法人 川腎協ニュース（都度発行）、機関紙 全腎協「ぜんじんきょう」・NPO 法人 神奈川県腎友会「じんゆう」を隔月毎に発行し教宣活動しております。
7. 一般社団法人 全国腎臓病協議会、NPO 法人 神奈川県腎友会、公益財団法人 川崎市身体障害者協会等関係団体と連携し、諸活動に協力しています。



(臓器移植キャンペーン)

8. 臓器移植法改正を受け、関係機関と協力して臓器移植推進運動に取り組めます。(川崎まつりにて実施)
9. 神奈川県保健予防課から発行された『災害時透析患者支援マニュアル』の市内透析施設への浸透と災害時の具体的な行動を地域毎に繋げる活動を今年度も継続していきます。特に、このマニュアルを活かした川崎市との連携や透析施設への広報などを、先進的に取り組んでいる地域の事例を参考にして活動していきます。



(旅行)

10. その他
 - NPO 法人川腎協定期総会の開催活動報告・活動方針・決算報告・予算の決定・役員を選出・規定改訂などを行います。
 - 役員会の開催
各施設患者会の代表である幹事様との会議を開催し、NPO 法人 川腎協の活動や予定報告、患者の悩み・医療福祉について情報交換を行い、患者会活動に活かします。

特定非営利活動法人
川崎地域腎臓病連絡協議会
会長 しみず まこと 清水 誠



第 48 回 手をつなぐ育成会関東甲信越大会報告



(式典・山梨県手をつなぐ育成会会長挨拶)

平成 26 年 9 月 19 日(金)第 48 回「関東甲信越大会」が甲府市内で開催されました。

主催は山梨県手をつなぐ育成会及び関東甲信越ブロック手をつなぐ育成会連絡協議会。

およそ 800 名の出席者がホールに一堂に会したのは、圧巻でした。川崎市育成会からは 15 名が参加しました。

式典では、山梨県手をつなぐ育成会会長の挨拶、山梨県知事などの来賓の挨拶があり、久保 厚子・全国手をつなぐ育成会連合会会長からの中央情勢報告があり、連合体発展への意気込みを話されました。

午後からは、毎日新聞論説委員・野沢 和弘氏による講演がありました。氏は内閣府、厚労省などの各種委員を担当し障害者の各分野で多彩な活躍をされています。

講演では高齢化に伴う、本人、親の問題、就労、人口減、住まい、障害者のいきざま(カタチ)、過疎化など、様々な障害者を囲む社会の課題を、多くの事例をスクリーンに映して、明るく元気の出る話しでした。その後、野沢氏を含めて、シンポジウムが行われ、会場参加者との質疑もありました。

社会全体で手をさしのべることの大切さ、命の尊さを教えられました。

…講演から…

①これからの社会は高齢化がさらに進み、家族が中心の福祉が立ち行かなくなってくるし、消滅する自治体が現れる。健康でいられる障

害者と高齢者、事業者が地域を支えていくようになるだろう。モノをつくる産業は人件費の安い外国に移ることができるが人を支える産業は外国には移れないのだから。

例として

- ・静岡では畑の維持の為に障害者が野菜を作り、団地等で市場を開いている
- ・新潟では雪下ろしや買い物の付き添いを障害者がしている
- ・都市近郊の農地を利用して高齢者と障害者がアボカドの栽培をしている
- ・デイサービスを街の拠点にと学習の場として 24 時間開放している。またショートステイの一部屋を、地元高校野球部員 2 人に貸して災害時の救助をしてもらう

②働くということでは授産から産業へで、付加価値を付けた商品を販売している「恋する豚研究所」や「ココ・ファーム・ワイナリー」が紹介されました。



(講演の様子)

③権利擁護では、「虐待防止法」「差別解消」「成年後見制度～意思決定支援」はパーソナルに考えなくてはいけない。差別解消法の実効性を担保する処置として、「差別解消支援地域協議会」の設立が盛り込まれている。2006 年に千葉県が全国に先駆けて条例を制定した。他にも北海道、岩手県、熊本県、長崎県、さいたま市、八王子市が条例を制定している。

(文：川崎市育成会手をつなぐ親の会・育成会かわさき No175 号掲載より引用)

川崎市内の障害者作業所紹介 地域活動支援センター 「トゥーランプラン宮前」

トゥーランプラン宮前は、1996 年 4 月に設立された、主に精神障害者の方が利用する施設です。

『トゥーランプラン』とはインドネシア語で『トゥーラン(明るく)』・『プランプラン(のんびりと)』という 2 つの単語を合わせた造語です。作業やプログラムを通して、利用される方が明るく、のんびりと活動出来る場を提供できればという願いが込められています。



《主な作業》

- ・クッキー製造販売 (一袋 100 円～)

国産の材料にこだわり生地作りからすべて手作りの、安心・安全なクッキーです。

- ・コーヒー豆のパック詰め

(200 g 700 円～)

有機無農薬の珈琲豆を仕入れ、お客様のご注文に合わせて挽き、パックに詰めています。

- ・有機無農薬茶のパック詰め

(ほうじ茶 380 円・煎茶 450 円)

和歌山産の有機無農薬のお茶を仕入れ、ティーバッグに詰めています。

- ・内職作業

簡単な部品の組み立てから、シール貼りなどを行っています。

★クッキー等の製品のご注文も承っております★

《主なプログラム》

- ・新年会
 - ・お花見
 - ・おでかけ(テーマパークや外食など)
 - ・料理作り(お好み焼きからそば打ち、ケーキ作りなど)
 - ・クリスマス&忘年会
 - ・一泊旅行・日帰り旅行
- ★その他 様々なプログラムを行っています



利用者：39 名

職員：5 名

〒216-0033

宮前区宮崎 5-14-29 グレース宮崎台 102

TEL 044-854-1156

かんざき まきこ
神崎 真樹子

宮前区身体障害者研修旅行

わたらせ渓谷鐵道と富弘美術館

9月23日バスは群馬の旅へ～銅山で有名な足尾駅から昼食予定の電車レストランのあるごうどえき神戸駅までコトコト可愛い溪谷電車でゆられ、口筆で描かれた暖かい作品を富弘美術館で鑑賞。早めに宿に着き温泉でゆっくりしました。

日光白根山天空足湯

24日ロープウェイに乗り空中散歩。着いた所は、別天地！足湯で暖まり、タイミング良く雲の切れ間から白根山山頂が顔を出し集合写真が取れました。川場村「道の駅」で荷物になるのも忘れ、お買い物。楽しい思い出が出来ました。



(日光白根山天空足湯)

宮身協 すずき まさこ 鈴木 雅子

※障害者社会参加推進センターでは、本紙へ掲載する作業所の紹介記事を募集いたします。

○テーマ：「川崎市内の障害者作業所の紹介」

○原稿字数：20字×40行～80行 程度

写真やイラストも可

○原稿ご送付方法：郵送・FAX・Email 等

先ずは、お問合せ下さい。

(詳細についてのお問い合わせ先)

川崎市障害者社会参加推進センター

事務局 担当：澤邊 さわべ

〒210-0834 川崎市川崎区大島 1-8-6

TEL 044-246-6941 FAX 044-246-6943

Email sawabe@mbr.nifty.com

平成 26 年度福祉講演会のご案内

本年度も、障害のあるなしにかかわらず、誰もが地域で普通に暮らせる社会づくりに向けて、障害者の社会参加推進を図ることを目的として、福祉講演会を開催します。

日 時：平成 27 年 2 月 22 日 (日)

13:30～16:00

会 場：川崎市国際交流センター

1F レセプションルーム

講 師：むねすえ としゆき 棟居 快行氏

国立国会図書館専門調査員

調査及び立法考査局政治議会調査室
主任

前内閣府障害者政策委員会差別禁止
部会部会長

演 題：障害者差別解消法の実施に向けて
～課題と展望～

参加費：無料

対象者：障害者及び家族、民生委員児童委員
福祉関係者、一般市民など

編 集 後 記

紅葉から落葉の季節を迎え、少し寂しい街の佇まいですが、夕暮れともなるとあちらでもこちらでも競い合うようにしてイル



ミネーションが華やかに点灯されています。楽しさの中に年末の慌ただしさを感じさせる今日このごろです。

さて、本号では、障害者当事者会、また家族会がその活動の一環としてよりよい生活をめざして各方面に「要望事項」提出の記事が目立ちました。障害の特性に応じて異なる要望もあり、また、共通の要望もあり、さまざまですが、生活者としての「生活の質の向上」をめざし、根気よく運動を続けたいものです。

視覚障害 大漣 純子

(頒価 100 円)